

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	奈良県	市町村名	奈良市	大学名	
派遣日	令和6年 12月 6日(金曜日) 13:30~16:30 1 開会 13:30~(櫻井先生の紹介) 2 講義 13:35~(前半) 3 休憩 14:50~ 4 講義 15:00~(後半) 5 質疑応答 16:15~ 6 閉会 16:25~				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	奈良市保健所・教育総合センター(はぐくみセンター)				
アドバイザー氏名	文部科学省 外国人児童生徒等 教育アドバイザー 櫻井 千穂				
相談者	奈良市教育委員会 学校教育課 指導係				
相談内容	DLAの概要や活用方法  奈良市は外国人散在地域であり、指導員の方々は、国籍・言語・背景が異なる児童生徒一人ひとりに寄り添い、最適な指導を目指して日々努力されている。 より効果的な日本語指導を実現するためには、児童生徒の日本語能力を正確に把握し、一人ひとりに合った指導計画を立てることが重要であり、対話型アセスメント(DLA)を実施する必要がある。そこで、DLAの概要や活用方法に関する研修を依頼した。				
派遣者からの指導助言内容	<b>【主な研修内容】</b> 「多文化多言語の子どものことばの力の評価『対話型アセスメントDLA』」  <b>1. 外国人児童生徒等への教育の基本的なこと(復習)</b>  間違った知識 ・日本語を理解していないので、授業に参加はできない。 →視覚支援、リライト教材を活用。クラスの全員にとってわかりやすい授業に。 ・ひらがな・カタカナとにかく何回も書かせておぼえさせる。 →覚えるだけのプリント学習は効果が限定的。体験、環境を通して習得させる。 ・日本語をのばすために家でも日本語を話してほしい。 →母語で読み書きがしっかりしていれば、日本語の読み書きの学習も進む。  子どものことばの力の発達とは →日本語指導とは、言葉、文法を教えることだけではない。 <u>概念や知識、考える力を育てることである。</u>				

	<p>子どもの言語能力の三面</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・会話の流暢度 日常会話、いつも使う簡単な文法や語彙。</li><li>・分別的言語能力 日本語の文法知識、文字など。</li><li>・教科学習言語能力 学年に応じた概念やことばの理解。習得に5年以上かかる。</li></ul> <p><b>2. DLA の目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・対話を通して子どもの最大限の力を、引き出し、測る。</li><li>・<u>子どもの力を認め、伸ばす。やる気を促す。</u></li></ul> <p>※現在、文科省の委託事業にて、外国につながる児童生徒の発達段階に対応した年齢 枠及びステージ別の能力記述文(CAN-DO リスト)の作成等が行われている。</p> <p><b>3. 実施のコツ</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・2人の児童の例を視聴しながら実施方法の留意点、評価の視点について学ぶ。</li><li>・2人の児童は本当に授業に参加できないのか、どのような支援が必要なのか考える。</li></ul> <p>→<u>子どもの頭の中をすかして見る。</u></p> <p>&lt;2人組でワーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○2人の児童生徒の DLA の動画を視聴し、話し合いながら実際にことばの力を判定する。</li></ul> <p>→<u>聞く、話す、読む、書く力の関係、年齢に伴う発達をふまえたことばの力等との関係を考え、強みを活かして指導方法を考える。</u></p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>終了後の参加者の感想を以下に抜粋。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「DLA を実施する際に子どもが持っている能力を日本語だけで見るのではない」という考えが印象に残っている。</li><li>・「子どもの頭の中をすかして見る」という視点を常に持ちたいと考えます。</li><li>・生徒が話す内容が日本語の文法として正しいかどうかということに重点を置きがちだが、生徒が話したいことは何か、どのようなストラテジーを使って表現しているのか、ということにもっと気を付けながら接していきたい。そのためにも DLA の実施は重要である。</li></ul> <p>○今回の研修を活かして、DLA を実施し子どもの実態に応じた支援・指導を行う。 また、DLA の結果を校内で共有し学校全体で支援できるよう、個別の指導計画の作成や、JSL カリキュラムの実施についても研修を重ねる。</p>

1 枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。